

実務者検討委員会 有志会合での意見のまとめ

委員有志による有志会合を令和2年1月22日に開催し、16名が参加した（議論の概要はメールにて配布済み）。

主な意見は以下のとおり。

1 ジャパンサーチ正式版に向けて

- 共同編集を可能とするプロジェクトページを jpsearch ドメインで公開する場合、内容の真正性・適切性の確保が必要だが、厳格な運用は困難。最初は顔の見える範囲でアカウントを発行し、関係者限り公開を原則とするのがよい。ただし、優良プロジェクトを正式公開できる工夫は必要。
- 「サポーター」制度の名称は工夫が必要。特別ユーザ、ゴールドメンバーなどユーザの一形態をイメージさせるものがよい。
- 正式版公開イベントは、利活用事例の発表やこれまでお世話になった方の祝辞があるとよい。
- 正式版公開日とイベント開催日は一致しなくともよいが、正式版公開を先に行う方がよい。
- ギャラリー拡充について、テーマ案としては、終戦75年目にちなみ「戦争」「空襲」、東日本大震災10年目にちなみ「震災」「津波」なども考えられる。

2 各分野・地域におけるつなぎ役の役割や分担の明確化について

- つなぎ役もいろいろなバリエーションがあってよい。
- つなぎ役の役割のハードルを下げるだけでは、つなぎ役のメリットが見いだせない。分野・地域の代表として位置付けて、メタデータ集約を組織の正式な業務とできるよう支援できる仕組みが必要。
- つなぎ役が出てこない分野・地域は、実質的にはアーカイブ機関との直接連携を進めるしかない。
- コレクションポリシーについて、コンテンツの内容で連携可否を区別することは困難。最低限の技術的要件（メタデータが整備済み、リンク先ページがある等）を満たしていれば連携候補としてよい。
- データの集約の話と提供の話は切り分けて考えることとし、集める際は区別せず、見せ方で工夫できればよい。
- 実際の連携の優先順位は、デジタルアーカイブアセスメントツールの得点を参考に、実務者検討委員会の判断で決めることにすればよい。

3 ジャパンサーチの運営体制について

- 正式版公開以降の運営体制は、現行の枠組みを基本とし、構成員の一部追加又は入替えを行うのがよい。
- より実質的な議論が行えるよう、実務者検討委員会の下に、ジャパンサーチ運営に関するワーキンググループがあればよい。